

令和5年度
岡山高等学校 選抜1期 一般入学試験問題

国語 (45分 100点)

- ・合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- ・解答はすべて指示に従って解答欄に記入しなさい。
- ・問いに字数の指定がある場合は、句読点や記号も一字に数えて解答しなさい。

次の文章は、江戸の菓子屋「南星屋」の菓子職人である「治兵衛」、彼を慕う下級武士の息子「翠之介」、その父親「稲川崎十郎」が会話している場面です。「翠之介」の父親は、息子がたぶらかされて菓子屋に出入りしていると勘違いし、店に怒鳴り込んできましたが、居合わせた武士「河路金吾」のとりなしにより冷静を取り戻しました。これを読んで、①～⑥に答えなさい。ただし設問の都合上、本文を一部省略した箇所があります。

「父上がどう言おうと、私の気持ちは変わりません。私はここで、菓子職人の修業をします！」

あまりの頑固さに、河路金吾がため息をついた。

お永とお君は隣の四畳半に下がり、居間には男四人が膝をつき合わせていたが、一刻近くが経っても、話はいつこうに折り合わない。

治兵衛が息子をそそのかしたのではなく、ただ甘やかしていただけだと知ると、父親は意外にも、己の短慮を詫びるような言葉を口にした。河路金吾のおかげもあって、治兵衛との和解までは円滑に進んだが、そこから先が思うように運ばなかった。

翠之介はどうしても、菓子屋になると言っつきかない。父親はもちろん、治兵衛や河路までもが説得にあたったが、翠之介の決心は揺らがなかった。堂々巡りの話し合いに、大人三人の顔には疲労が色濃く浮いていた。

やがて父親が、覚悟を決めたように口を開いた。

「先刻、店の前で叫んでいたな。おれのような侍にはなりたくない……おまえがそうまで言い張るのはそれ故か？」

翠之介は膝に目を落としたまま黙っていたが、両手に握られた袴が、きゅつと絞られた。

「おれが父上のように立派な侍ではないから……学問もできず、碌なお役目にもつけず、おまえたちに菓子ひとつ与えてやれぬ。お前が侍を厭うのは、そのためか？」

他人の前で己の恥をさらす、その正直さに、治兵衛は少なからず驚いた。(中略)

幕府の開府から、すでに二五十年が経とうとしている。禄はそのあいだいっこうに変わらぬのに、物価だけはどんどん上がる。いまや下級武士の暮らしは、かつてないほど逼迫していた。

「父上が生きていた頃は、まだ良かった。決して豊かとは言えぬまでも、暮らしはいまよりずっと楽だった」(中略)

父親は声を落とした。

「おまえはその頃のことを覚えているからな。以前の暮らしが忘れられず、貧乏に嫌気がさしたのだろう。おれとて同じ思いだが……」

「昔を忘れられぬのは、父上の方ではありませんか！」

愚痴めいた弱気な呟きを、翠之介がさえぎった。顔を真っ赤にして、袴を握り締めていた両手を、ほん、と畳について父親に向き直った。

「同心のお役目も、貧しい暮らしも、私は少しも苦にしてはおりません。佳苗がかわいそうに思えることはありますが、それだけで菓子屋を志したのではありません」

翠之介は妹の名前を出して、なおも父親に詰め寄った。

「父上が毎晩のようにもらす繰り言が、きくに堪えなくなったのです」

平時の先手は城の門番に過ぎず、同輩と軽口をたたくより、暇の潰し方がない退屈な勤めだった。それを父親は、酒を飲みながら飽くことなく繰り返していた。

「お役目がつまらない、禄が少ないと、おじいさまと己を引き比べてはこぼしている。それがどうにも辛くてなりませんでした」

「翠之介……」

「おじいさまは、たしかに立派な方でした。だからといって、そのために父上を軽んじるような真似は誰もしてはおりません。父上だけがいつまでも、おじいさまを引きずって……」

それまでずっと堪えていた涙が、子供の目からこぼれ落ちた。それをぐいと袖で拭い、翠之介は言葉を継いだ。

「……私もやはり、学問はあまりできません。このまま大人になってお役目についても、やっぱり同じ繰り言を呟きながら、一生を終えるのかと思うと怖くなりました」

しばしの沈黙の後、やがて父親が、そうか、と呟いた。

店先で声を荒らげていた居丈高な侍の風情は、すっかり影をひそめている。放心するようにぼんやりとした頼りないその姿に、治兵衛は胸が詰まった。立派な父を持つというのは、息子にとっては決して有難いことではない。この世を去ってもなお、目の前に立ちふさがる父親の亡霊に、稲川崎十郎は囚われていたのだろう。

己だけはその妄執に囚われまいと、必死で抗う子供に、治兵衛はたずねた。

「菓子職人になりたいという志は、変わりませんか？」

「はい」

「それなら、筑後久留米に修業に出しましょう」

え、と翠之介のからだだが揺れた。それまで決して動かなかった硬い表情に、はじめて不安の色がよぎった。

「久留米には、あつしが昔世話になった菓子屋がありますね。職人をたくさん抱える大店で、親方もたしかな腕を持っている」
治兵衛がいた頃から、すでに代替わりはしているが、いまでも便りを交わす間柄だった。

そこで十年は修業をするようにと、治兵衛は厳しい表情で言い渡した。

「……筑後久留米とは、どこにあるのですか？」

おそるおそるたずねられた問いには、河路金吾がこたえた。

「江戸からは何百里も離れた、海を渡った西にある。当家はその隣の肥前にあるが、早飛脚でも片道二十日、子供の足なら幾月もかかる」

「そんな遠くに、どうして……私はここで、南星屋で、親方に菓子作りを教えたかったです」

「ここなら四ツ谷から近い。すぐにも里帰りができると、そう考えていなさるのかい？」

虚を突かれたように、子供の口があいた。

「そんな甘い考えでは、到底、菓子職人なぞなれやせん」

菓子屋の朝は早い。夜明け前どころか、夜中から作業にとりかかるといっても少くない。小僧ともなればなおさらで、誰よりも早く起きて下働きをこなし、治兵衛は菓子部屋に入れるまでに三年、菓手にさわらせてもらえるまでには、さらに一年以上もかかった。本当に、ただ辛いばかりの日々で、今日こそ家へ逃げ帰ろうと毎日のように考えた。

どうにか踏みとどまることができたのは、治兵衛もまた、武士の身分を捨てたからだ。己にはもう、帰る家などないと、子供なりにそれだけは肝に銘じていた。治兵衛は修業時分のことを、誇張することなく淡々と語った。

「筑後へ行っても江戸にいても、修業が辛いのは変わらねえ。それならいっそ、海を越えちまった方が諦めもつく」
話の途中から、固い巖いわのようだった翠之介の決心が、みるみる削そがれて小さくなっていくのが、手にとるようにはわかった。

「ましてお家を捨てて菓子屋になるといふなら、金輪際こんりんざい、お父上はもちろん、お母上や妹さんにも二度と会えないと、その覚悟をしてもらいやすよ」
「……母上にも、佳苗にも、会えぬのですか……」

最前までの勢いはすっかり失せて、翠之介はしょんぼりとうなだれた。
しばしの間をおいて、治兵衛は調子を変えた。

「坊ちゃんには本当は、お父上さまが大好きなんでしょう？」
翠之介と父親が、よく似た表情で、一緒に顔を上げた。

「大好きだからこそ、塞ふさいでいる姿が見るに忍びなくなつた。そういうことじゃねえのかい？」
すぐにこたえを出すには、難し過ぎるのだろう。翠之介は、困つたように眉根を寄せた。

「翠之介、ひとまず家に帰らぬか。日が落ちてだいぶ経つた。皆が止めるのもきかず、無理におまえを引きずってきた故、おばあさまもおまえの母も、たいそう案じておらう」

「父上……」

迷っているというよりは、あれだけ言い張つた後だけに、引つ込みがつかないのだろう。その背中を押すように、治兵衛は話を変えた。

「坊ちゃん、今日拵こしらえたみどりには、別の謂いわれがありましたね。松の翠みどりではなく、身を縁取るといふことからその名がついたと、そういう説もあるんですよ」

「身を、縁取る……」

砂糖を幾度もかけて、衣を纏まとわせることが名前の由来だと、伝えるものもあつた。

「翠坊ちゃんも、いまは身を縁取る時だと思ひますよ。手習いや剣術もそのためのもので、己のすべきことをきちんと修めて、それでも菓子屋になりてえと言ふなら、相談に乗りやしよう。それまでは、決してここへ来てはなりやせん」

治兵衛は親方として、そう申し渡した。悲しそうに翠之介が、こちらを見上げる。

① 厳しい顔をくずさぬよう、治兵衛は奥歯を食いしばつた。

(出典 西條奈加「まるまるの毬」)

(注) お永とお君——治兵衛の娘と孫。

一刻——約二時間。

禄——武士に与えられる給料。

先手——戦で一番先に進む部隊。

筑後久留米——現在の福岡県にある町。

小僧——店などでこまごました雑用のために使われる年少の男の子。

今日拵えたみどり——治兵衛が作って翠之介に食べさせた菓子。

① ——の部分①、②の漢字の読みを書きなさい。

② 「^⑥そこから先が思うように運ばなかった」とありますが、「そこから先」の内容として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 翠之介に菓子職人を目指す理由を語らせること。

イ 翠之介に父親の面目を保つため謝罪させること。

ウ 翠之介に父親と本音で話し合いをさせること。

エ 翠之介に菓子職人になる道を断念させること。

③ 「^④それだけで菓子屋を志したのではありません」とありますが、「翠之介」が菓子職人を目指す最大の理由を説明した次の文の□□に入れるのに適当なことを、三十字以内で書きなさい。

将来、自分が侍になったときに、□□ という毎日を送り、自分を卑下しながら一生を過ごすことが予想され、侍になることが怖かったから。

④ 「^⑥筑後久留米に修業に出しましょう」とありますが、「治兵衛」がこのように言う目的を説明した次の文の□□、□□に入れるのに適当なことを、
□□ は文章中から三字で抜き出し、□□ は二十五字以内で書きなさい。

簡単には□□ ができないはるか遠くの修業先を提案することで、翠之介が菓子職人になるために、本当に□□ ということを、翠之介自身に考えさせるため。

⑤ 「^① 厳しい顔をくずさぬよう、治兵衛は奥歯を食いしばった」とありますが、このときの「治兵衛」について説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 自分を頼る翠之介に優しくしてやりたいと思いつつも、翠之介にとつて今は自身をつくり上げていく大切な時期であると考え、あえて突き放している。
- イ 翠之介の悲しげな様子に心を痛めながらも、将来菓子職人として大成することを願い、今は自分を成長させることに専念すべきだと教えさとしてしている。
- ウ 困り果てた翠之介の力になりたいと思いつつも、それは父親の役目であるとはわきまえて、わざと翠之介に嫌われるような意地悪な態度を取っている。
- エ 家に帰ると言い出せない翠之介の頑固さにあきれながらも、まずは気持ちを和らげるべきだと考えて、翠之介の大好きな菓子の話題を出している。

⑥ この文章の四か所の~~~~~について、それぞれの表現の特徴を説明したものと**適当でない**のは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 「両手を、ぱん、と畳について」という表現は、ため込んでいた翠之介の思いがついにはじめて表出した瞬間を示している。
- イ 「涙が、子供の目からこぼれ落ちた」の「子供」という表現は、幼いながらも父親を想う翠之介のいじらしさを強調している。
- ウ 「固い巖のようだった翠之介の決心」という比喻表現は、家族よりも己の夢を優先する翠之介の並々ならぬ決意を表している。
- エ 「よく似た表情で、一緒に顔を上げた」という表現は、この似た者同士の親子の心が後には通じ合えることを示唆している。

問題は次のページに続きます。

次の文章を読んで、①～⑥に答えなさい。

古典では冬は重要な季節です。江戸時代ですと、それが松尾芭蕉の俳諧の精神にうけつがれているのですが、時代がさかのぼって、鎌倉時代、室町時代の中世の美学の中では、冬が重大な概念になっています。たとえば心敬しんけいという十五世紀の連歌師れんがしが『ひとりごと』という書物の中でいいことをいっています。氷ばかり艶えんなるはなし。刈り田の原などの朝あした、薄氷。④古りたる檜皮ひだの軒などのつらら、枯れ野の草木など、露霜にとじたる風情、おもしろくも艶えんにもはべらべらずや。

「氷ほど艶つややかなものはない」には驚きます。稲の収穫が終わった田んぼですから、いかにも蕭条しょうじょう、荒涼という感じでしょう。第一には、朝まだ寒いときに薄氷が張りつめているのに目をつける。第二には、檜ひのきの皮でふいた屋根の軒先につららが垂れている。第三には、蕭条とした枯れ野の木や草が露や霜で覆われてしまつて静まっている風景。こういう三つを挙げて、おもしろいではないかといっている。原義的には、ぱつと目を覚ませられるようなことを「おもしろい」といいますが、そういう状態が艶えんやかだといっています。氷などは冷たいばかりでどうということはないと思いきや、それが艶えんだといふのですから、およそ反対の概念です。艶えんとは、牡丹ぼたんの花の極彩色とか、脂ぎっている状態でしょう。そうではなくて、⑤枯れはてた冷たいものが艶えんだといふ。私も最初はわかりませんでした、それがわかったと思つたのは室生犀星むろうさいせいの詩、「切なき思ひぞ知る」を読んだときです。

私は張りつめたる水を愛す
斯かる切なき思ひを愛す

これと心敬しんけいが結びつきました。氷が艶えんというのは、ピンと張りつめた水の緊張感、緊密感、緩みのなさで、それがすばらしい迫力をもっている。大輪の牡丹には、爛たれとか余分なものがありませんが、かえつてむだのない緊張したものの存在が美しい。樹氷や霧氷は「⑥草木などの露霜にとじたる」ものではないでしょうか。心敬は、それを恰好かっこうがおもしろいと見るのではなく、凝視していますから、閉じこめられ圧縮された生命力を感じるのです。それが「とじたる風情」です。霧氷とか樹氷とか、凍りついたもの、凍こてついたものの美しさを心敬はいつていると思います。

さらに冬は、「冷ゆ」からきたという意見もありますけれど、心敬は「冷え」が一つの美しさだという。あるいは「瘦やせ」、寒く瘦やせたる句がいいという。緊張感、贅肉ぜいにくをそぎ落としたところに残るもの、これでもかこれでもかときりきり突きつめた果てに残ったものが本当に美しい。

結局すべてを捨ててしまふ。捨象しやしやうでもいいし、否定の美学といつてもいい。何かもう一つ裏返してみる思考方法。これが中世の思考の一つの特徴です。『枕草子』では「春はあけぼのがいい。秋は夕暮れがいい」といいましたが、後鳥羽院ごとよという中世の歌人は、

見わたせば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋となに思ひけん
(どうして思つたのだろう)

〔新古今集〕春上

と歌いました。「夕べは秋がいいというが、**A** だつていいではないか」というわけです。これも、王朝的な美意識をいっぺん否定し、そこに浮かびあがってくるものを季節の美しさとしてとらえようとする。この否定には基本的には仏教があります。仏教はこの世の中を否定的に考え、無常を価値あるものと考えます。否定の精神が美になりますと、氷がいいということにもなる。美しいものをつかみ出すわけですから、否定することはすなわち**B** です。単なる虚無とは違います。何かを否定して、そこに積極的な意味を見つけていこうとするというのが心敬の考えているもので、冬ふゆの美しさはそういうこと

ろにあるのではないでしょうか。

(出典 中西進「古代日本人・心の宇宙／日本人のこころ」)

(注) 檜の皮でふいた——「葺く」とは、板・茅・瓦などで屋根をおおうこと。

① 「古りたる檜皮の軒」の読みを、現代かなづかいを用いてひらがなで書きなさい。

② 「枯れはてた冷たいものが艶だ」とありますが、心敬がそのように言う理由の説明として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 凍りついた静止物のなめらかな表面は目が覚めるほどのきらめきで美しいから。

イ 緩みもなく張りつめた存在に胸が締めつけられるような悲しみを抱くから。

ウ 張りつめてむだのない緊張したものの中に圧縮された生命力を感じるから。

エ 無色で冷たく固まった姿だけにかえってぎらつく極彩色の世界を期待するから。

③ 「草木などの露霜にとじたる」の現代語訳にあたる表現を、本文中から二十二字で抜き出して書きなさい。

④ に入ることばとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 春の夕べ

イ 夏の早朝

ウ 秋の早朝

エ 冬の夕べ

⑤ に入れるのに適当な漢字二字の熟語を答えなさい。

⑥ 「後鳥羽院」という中世の歌人」とありますが、この話題を出して筆者が言おうとしていることの説明として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 中世の思考法には、心敬とは別に、王朝的な美意識を裏返す方法もあるということ。

イ 中世の思考法には、心敬と同様に、季節の美を否定する仏教的精神が基本にあるということ。

ウ 中世の美学では、心敬ともども、冬が重大な概念だと捉える考え方があるということ。

エ 中世の美学では、心敬と同様に、否定を通して美をつかもうとする思考法があるということ。

3

次の文章を読んで、①～⑥に答えなさい。ただし設問の都合上、本文を一部省略した箇所かしよがあります。

「信じて疑う」ことが大事だと私に教えてくれたのは、専修大学教授だった経済学者の内田義彦さんうちだよしひこ（1913-1989）です。内田義彦さんの著書に『読書と社会科学』（岩波書店）という本があり、社会科学の文献の読み方について書かれています。本や文献を読むときの態度として、はじめから「何だ、この人はわからないことを言ってるな」などと反発して読んでも、逆に「すばらしい。なるほど」と全てを「鵜呑みうぐみ」にして読んでも、それは読書にならないと言います。内田さんは、著者が書いたことを一度信じてみる。そして、信じた上で「では、これは説明できているだろうか」と、もう一回疑ってみる。そのような態度を持つことこそが社会的な文献の読み方だと述べています。

私は、これは全ての読書論にも広げられるのではないかと考えてきました。

私たちのように戦後の何もない時代に生まれてきた人間は、小学生の頃に古本屋ができ、そこでようやく『怪人二十面相』などを読めるようになったのですが、私の子どもや孫の世代は、小さい頃から本に触れ、親しみ、読書をして育ちました。いまは本を読む機会⑧は豊富にあり、本を読むこと自体は、昔よりはるかに容易になったと思います。

しかし、本を読んだからといって、そこに書かれていることを過不足なく理解できるわけではありません。自分が知らないことばかりがたくさん書いてあると、途端に億劫おっくうな気持ちになり、読み進められなくなるといふ体験は誰にもあるでしょう。

学校によっては、一年に一〇〇冊以上読みましよう⑨とノルマにしたり、読んだらシールを貼って競わせたりすることもありますが、それでは読みたくなる子どもが出てくるのも当然です。

読書は、とにかくたくさん読めばいいというものでも、知識や情報を抜き取るためにもありません。キーワードを抜き取って、自分で使いこなす力がその人であればそうした読み方はないわけではありませんが、とりわけ子どもの頃には難しいでしょう。

読書によって鍛えられるのは、さまざまに思考の力です。その本を読みながら、内田さんが述べたように、「著者が書いたことを一度信じた上で疑ってみる」態度を持つか持たないかで、読書の意味が変わってきます。

その本の知識を全て取り込もうとしなくても良いのです。一度読んだだけでもいい。じっくり少しずつ読んでもいい。何度も繰り返し読んでもいい。「信じて疑う」読み方をして、その本の数か所について自分なりに考えることで思考のしかたが鍛えられるのです。

ドイツの哲学者、ショーペンハウアー（1788-1860）も、⑩『読書について』という面白い文章を書いていました。読書はすればするほどよい、たくさん読めば⑪カシコくなるという認識は大きな間違いだと言います。その鋭い指摘は読書の本質を突いています。

「悪書は知性を毒し、精神をそこなう。良書を読むための条件は、悪書を読まないことだ」

たとえばこのように書いているのですが、この一文についても、私たちが「信じて疑う」読み方をするとしたら、「なるほど、良書を読むためには悪書を読まなければいいのか。じゃあ、どうすれば良書と悪書を見分けられるんだろう」と考えてみるすることができます。そして自分なりに考えながら読み進めていくわけです。

するとまたこのような一文が出てきます。

「読書するとは、自分でものを考えずに、代わりに他人に考えてもらうことだ」

つまり、著者が問いを立て、投げかけて、それに対して著者が考えて結論を出す。読書はそれをただ読むだけであれば、著者が考えていることの後追いに過ぎません。つまり、本を読んでいる人間は自分で考える力をなくしてしまうという警告です。読めば読むほど、考えない人間になると言います。

また、読書を食事にもたとえます。
「食事を口に運んでも、消化してはじめて栄養になるのと同じように、本を読んでも自分の血となり肉となることができているのは、^イ反芻^{はんそう}し、じつくり考えたことだけだ」

ショーペンハウアーは、読書が全て役に立たないと言っているわけではありません。手当たり次第に読めばいいという考えや、本に書いてあることだけを妄信的に信じることについて警鐘を鳴らしているわけです。

信じることと疑うことは相反しますが、常に、「なるほど」「でも、本当にそうだろうか」などと「信じて疑う」訓練に、読書は適していると私は考えています。(中略)

相手を深く理解するためには、たとえ自分の土俵や発想のしかたと相手のそれらが全く違うとしても、その人の語りの世界にまず入ることが必要です。相手に身を寄せて、「なるほど。この人は根っこにこんな背景があるんだな」とわかると、「だからここで怒っているのか」と理解できるようになっていきます。

自分の土俵に立ったままで相手の土俵を理解するのは不可能です。本当に理解しようと思うなら、その人の土俵にこちらが身を寄せる必要があります。「うん、わかる。そういうことだな」と共感的に理解していく。本当に本を読める人は、それができるはずですよ。

そしてその上で、もう一度自分の土俵に戻る。そのことが、実は読書では最も大事です。「なるほど」と思った後に、「私は子どもの頃、こういうことを考えた」「もつとこういうことが知りたかったけど、この人はそれについてはどう考えるのかな」「もともと私はこう考えていたけど、これで全部説明できるのかな」「この人がここにいたら、これを質問したい」「この人の立場で言うと、私の考えていることはどこに位置づけられるのかな」など、自分の土俵でそれを咀嚼^{くわくかく}します。^エ消化^{じゆうか}活動^{かどう}をして、また相手の土俵に入ります。

相手の土俵と自分の土俵を^オオウライ^{おうらい}するうちに、だんだんと自分の土俵が大きくなっていきます。相手から学び、同時に自分を失わない。相手から学び、同時に自分が豊かに大きくなっていく。それが「信じて疑う」という読み方です。

第3章で、私は、「教養とは、いろいろな知識をより上位の知識とつなげていこうとする姿勢」とお伝えしました。

自分一人だけで考えていると、なかなか上位の知識にたどり着くことはできません。まずは、読書も含め、いろいろな他者との対話により、自分を越えた論理を知ることです。[㊦]人間は、一人では絶対に真理はわかりません。何かをわかるためには最低二人が必要です。他者と対話を繰り返しながら、「この人はこう言っている。私はこう考える。ここが一致した」となったとき、そこに初めて真理が生まれるのです。

まったく違う立場の人とも「ここまでではわかる。だけどこの先は私とは違う」という作業を繰り返し、それをつなげていくことで、より一般的な理論の世界が見えてくるのです。

(出典 汐見稔幸^{しおみとしゆき}「教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと」)

① —の部分③、④を漢字に直して楷書で書きなさい。

② くくの部分ア、エのうち、読書に関する筆者の考えに反する行為はどれですか。一つ答えなさい。

ア 鵜呑み イ 反芻 ウ 咀嚼 エ 消化

③ 「本を読むこと自体は、昔よりはるかに容易になった」とありますが、筆者が現代の読書について問題視していることを説明した次の文の [X]、
[Y] に入れるのに適当なことを、それぞれ文章中から四字で抜き出して書きなさい。

現代は、単に本を [X] 読むことをよしとして勧める風潮があり、一冊の本に対して考えをめぐらせながら読む経験の不足から、 [Y] を鍛えにくい状況にあること。

④ 「『読書について』という面白い文章」とありますが、筆者がショーペンハウアーの文章を引用した目的を説明したものとして最も適当なのは、ア、エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア よい読書とは、書いてあることの中から必要な知識や情報を抜き取り、それを自分で使いこなすことだという筆者の主張に説得力を持たせるため。
イ よい読書とは、まずは書いてあることをそのまま受けとめ、次にその内容を検証して自分なりに考えてみることで、筆者の主張を補強するため。
ウ よい読書とは、著者の考えを丁寧にとりつつ、時には反論も加えながら自力で理解することだという筆者の主張との相違点を浮き彫りにするため。
エ よい読書とは、最初から著者の意見に賛同する姿勢で読み始め、書かれていることを素直に受け入れることだという筆者の主張を正当化するため。

⑤ 「人間は、一人では絶対に真理はわかりません」とありますが、筆者がそのように言う理由を説明した次の文の [X]、[Y] に入れるのに適当なことを、
[X] は文章中から六字で抜き出し、[Y] は二十五字以内で書きなさい。

自分の知識をより上位の一般的な知識とつなげて真理にたどり着くためには、 [X] を何度も行いながら、 [Y] ことが必要だから。

⑥ この文章で述べられた「読書の意義」について説明したものとして最も適当なのは、ア、エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 理解しがたい内容を反復して少しずつ読み進めるうちに、豊富な知識や忍耐強さが身につくこと。
イ 語られた内容を疑ってかかる態度が習慣化して、論理的・科学的な思考ができるようになること。
ウ 相手の語りの世界に入り込んで共感的に理解しつつ、自分の考えを深めていく力が養えること。
エ 本を通して対話する機会が増え、立場がまったく違う人とも心を通わせられるようになること。

問題は次のページに続きます。

4

高校一年生の悠太^{ゆうた}さんのクラスでは、情報リテラシーについて学習を進めています。今日の授業では健^{たける}さん、さくらさん、結依^{ゆい}さんと一緒に「インターネット上の情報」について【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】を用いて【話し合い】をおこないました。また、先生は【資料ⅢA】・【資料ⅢB】を用いて最後に授業のまとめをしようとしています。次の【話し合い】を読んで、①～③に答えなさい。

【話し合い】

先生 前回の授業では、「情報リテラシー能力」というのは情報を効果的・効率的に探し出し、精査し、使うことができる能力を指すということを知りましたね。今日は資料を用いて、私たちの身近にある「インターネット上の情報」について話し合ってみましょう。

悠太 【資料Ⅰ】は、商品の購入を検討するときに、公式サイトやSNSがよく利用されているということを示していると思う。私も何か欲しいものがあつたときには、まずはインターネットでその商品に関する情報を集めるよ。

さくら でも【資料Ⅰ】で一番重視されているのは、店頭や店員さんからの情報よ。インターネットでの買い物は手軽で便利だけど、実際に自分で商品を手にとったり、商品のことをよく知っている人に直接話を聞いたりして購入するのが安心だと思う。

結依 そうそう。いい買い物をするには、やはり信頼のおける人の意見を聞くのが一番よ。たとえば友達とかね。【資料Ⅰ】を見れば、インターネット上の口コミも参考にはなるけど、友達の意見には全然かなわないことが分かるわ。

健 私はお店に行ったとき、新聞やテレビの広告で強く印象に残っている商品を選ぶことが多いよ。それからインターネットを見ているときは、SNSでおすすめの商品が紹介されているとつい見ってしまうし、欲しくなってしまうから、【資料Ⅰ】の調査結果には納得がいくよ。

先生 皆さん、しっかり話し合えましたね。それでは次に【資料Ⅱ】を見て、意見を述べてください。

悠太 これは私も経験があるよ。SNSを見ているときに【資料Ⅱ】のような広告はよく表示されるんだ。買い物をする気になくても、表示されるとつい見ってしまうよね。

結依 わかるわかる。特に必要なものでもないけど、安くて興味をひかれる商品がよく表示されるのよ。

さくら そういう時は気をつけなさいといけないわ。【資料Ⅱ】のなかでも は、最初はお得に思っても、後からお金のトラブルが発生する可能性があるのよ。

先生 では、【資料ⅢA】の広告を見てください。これは【資料Ⅱ】で示された広告の内容と、【資料ⅢB】のデータを元にして私が作成したものです。実はこの広告には、データを正しく使わずに購入を促している不適切な表現がいくつかあります。それはどこか、指摘してみましょう。

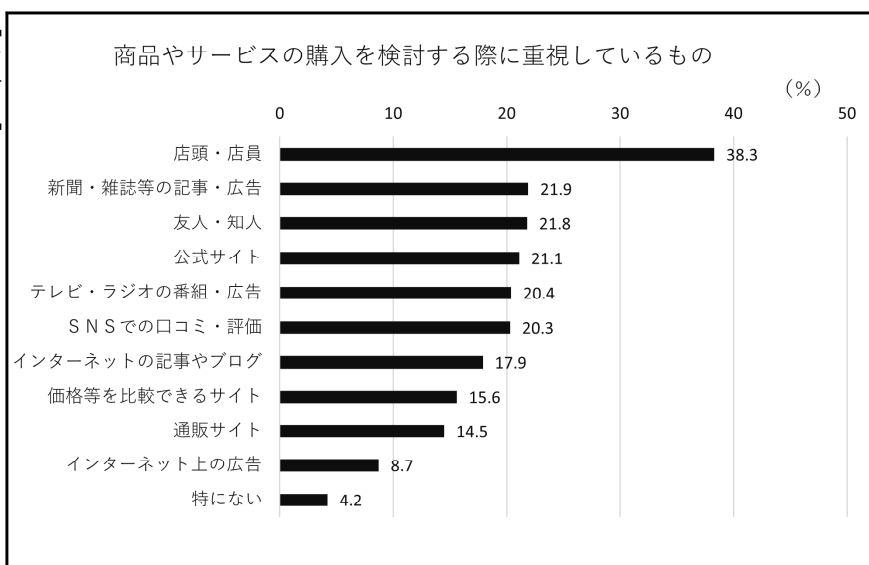
① 【資料Ⅰ】に関する生徒4人の発言の中で、【資料Ⅰ】の内容にそぐわない発言をしているのはだれですか。ア～エのうちから一つ答えなさい。

ア 悠太 イ さくら ウ 結依 エ 健

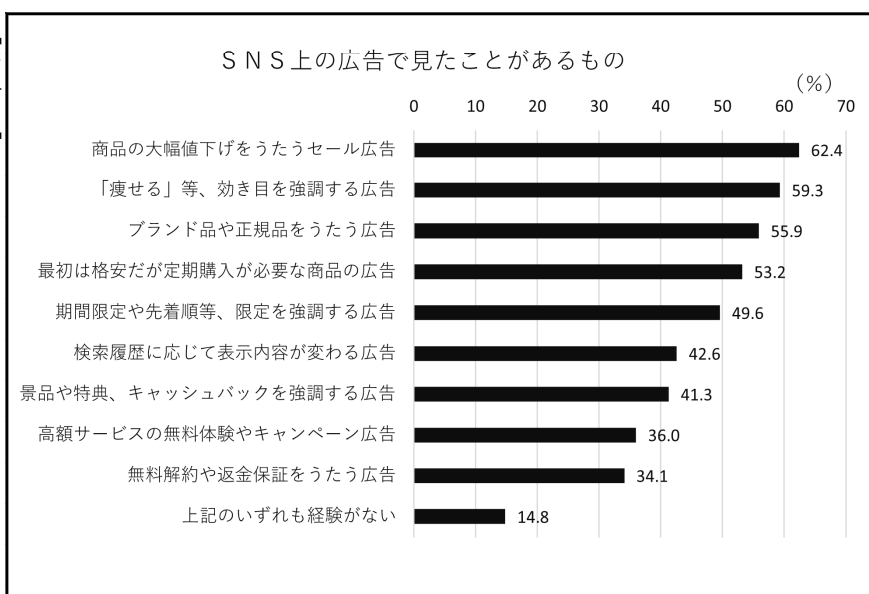
② にあてはまる項目として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 「商品の大幅値下げをうたうセール広告」
- イ 「ブランド品や正規品をうたう広告」
- ウ 「最初は格安だが定期購入が必要な商品の広告」
- エ 「無料解約や返金保証をうたう広告」

【資料Ⅰ】



【資料Ⅱ】



(消費者庁 令和3年度消費者意識基本調査より)

③ 線部の「先生」の問いかけに対する答えを、条件に従って書きなさい。数字については、後に示す記入例に従って漢数字で書きなさい。

- 条件
- 1 【資料ⅢA】の〰〰〰線部ア～ウのうちから、あなたが指摘したい項目を一つ選び、解答欄の一文目の□に書き入れること。
 - 2 二文目以降に、1で選んだ項目が適切ではないと考える理由を、八十字以上百字以内で書くこと。その際、【資料ⅢB】を用いて根拠を明らかにして書くこと。

記入例

100人 ↓
一
〇
〇
人
または
百
人

12人 ↓
十
二
人

医学博士もおすすめ!

健康増進サプリメント

☆ ア たくさんの方が効果を実感しています!

☆ イ 約20%の方は「使用後1週間で効果あり」と断言!

☆ ウ 遅くとも3カ月お使いいただければ効果を実感いただけます!

通常価格 10,000円 → **今だけ 2,500円**

※限定価格期間:2月20日まで

現時点での在庫:残り7個!

※売り切れの際には再入荷に3カ月かかりますのでご注意ください。

SNS投稿画像



体験談

Aさん(東京都):○○○○○○○○○○○○○。

Bさん(大阪府):○○○○○○○○○○!

Cさん(高知県):○○○○○○○○○○○○○。

○ 販売価格 2,500円

○ 被験者アンケート 100人中

男性 … 50人	10代 … 20人
女性 … 50人	20代 … 30人
	30代 … 30人
	40代 … 10人
	50代 … 10人

効果を実感した … 30人

効果を実感しなかった … 20人

よくわからない … 50人

○ 効果を実感した人への質問

「いつから効果が出たか」

約1週間後 … 6人

約1カ月後 … 7人

約3カ月後 … 13人

約半年後 … 4人

